

令和 8 年

長野県

農作物病害虫・雑草防除基準

別冊

【こんにやく】

＜注意事項＞

- ・令和 7 年 11 月 30 日現在の農薬登録内容による。
- ・本防除基準をご使用になる前に、本冊に掲載されている「活用上留意する事項」「特別指導事項」「薬剤抵抗性管理」を必ずお読みください。

こんにやく

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシンー100	散布	収穫30日前まで	6回以内(但し、種いも浸漬は1回以内)	
M1	キノンドー水和剤40	散布	収穫30日前まで	8回以内	
-	クロールピクリン	土壤くん蒸	—	1回	
25	ストマイ液剤20	散布	収穫30日前まで	6回以内(但し、種いもへの処理は1回以内)	
1	トップジンM粉剤DL	種いも粉衣	植付前	1回	
M1	硫酸銅	ボルトー液を調製して均一に散布する	—	—	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、本冊に掲載されている「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照。）
- 注3) 使用回数は栽培期間内での回数であり、掘り上げない栽培の場合は、年をまたいだ収穫までの総使用回数なので、間違ないように注意する。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、本冊に掲載されている「特別指導事項」「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

散布時期	散布薬剤と薬量 (水100ℓ当たり)	10a当たり 散布量	発生病害虫名 (太字は防除 重要病害虫)	注意事項
植付直前	トップジンM粉剤DLを種いも10kg当たり200g粉衣する。		乾腐病 腐敗病 根腐病 白絹病	<p>1. 粉衣は種いもの表面が乾燥した状態で行う。</p> <p>2. 所定量の粉剤を種いもによく付着させるため、種いもを十分反転する。</p> <p>3. 根腐病発生は場では、植付前にクロールピクリンで土壤消毒し、消毒いもを植える。本剤は乾腐病、白絹病および紋羽病に対しても効果がある。</p>
7月展葉直旬後	ストマイ液剤20 100ml	300ℓ	腐葉病 敗枯病 根腐病	<p>1. ストマイ液剤20にかけてアグリマイシンー100の1,000倍液を散布してもよい。</p> <p>2. 葉柄および葉裏へ重点的に散布する。</p>
7月中旬	4-4式ボルトー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	300ℓ	腐葉病 敗枯病 根腐病	1. この時期以降、乾燥が続くと葉色が淡くなる亜鉛欠乏が発生しやすい。

散布時期	散布薬剤と薬量 (水 100ℓ 当り)	10a 当り 散布量	発生病害虫名 (大字は防除) 重要病害虫	注意事項
7月下旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	300ℓ	腐葉根 敗枯腐	病病病 1. 日中高温時の散布は薬害発生のおそれがあるので、朝夕の気温の低いときに散布する。
8月上旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	300ℓ	腐葉白 敗枯絹 アブラムシ類 コガネムシ類	病病病 1. 日中高温時の散布は薬害発生のおそれがあるので、朝夕の気温の低いときに散布する。 2. 腐敗病り病株は抜き取って処分する。 3. アブラムシ類が発生した場合はスミチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。
8月下旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	350ℓ	腐葉 敗枯	病病 1. この時期からボルドー液のかわりにキノンドー水和剤 40 の 600 倍液、ストマイ液剤 20 、アグリマイシン 100 の 1,000 倍液のいずれかを散布してもよい。
9月上旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	350ℓ	腐葉 敗枯	病病 1. この時期から雨や強風直後に腐敗病、葉枯病が多発する。 2. 腐敗病の発生が多い場合は、次の防除までの間に追加で、ストマイ液剤 20 、アグリマイシン 100 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。
9月中旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	350ℓ	腐葉 敗枯	病病 1. 腐敗病の発生が多い場合は、次の防除までの間に追加で、ストマイ液剤 20 、アグリマイシン 100 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。ストマイ、アグリマイシンの散布は収穫 30 日前までとする。 2. 強風により茎葉に傷が生じた場合は直ちに散布する。
9月下旬	4-4式ボルドー液 〔生石灰 400g 硫酸銅 400g〕	350ℓ	腐葉 敗枯	病病 1. 種いもは掘り取り後、予備乾燥を十分行い、無病いもを貯蔵する。

※キノンドー水和剤 40 、クロールビクリン、硫酸銅 (ボルドー) は魚毒に注意する。

・除草剤

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン細粒剤F		植付後又は培土後 (雑草発生前) (但し、植付 30 日後まで)		
ゴーゴーサン乳剤	全面土壤散布		1回(ペンティメタリン1回)	
コンボラル	全面土壤散布	植付後、培土後 (萌芽前)	1回(トリフルラリン2回以内、ペンティメタリン1回)	
トレファノサイド粒剤2.5		植付直後、中耕培土直後 (萌芽前)	2回以内(トリフルラリン2回以内)	
トレファノサイド乳剤				
ブリグロックスL	雜草茎葉散布	畦間処理: 雜草生育期 (但し、収穫30日前まで) 植付後～萌芽直前 植付前	3回以内(シクリット3回以内、ペラコート3回以内)	

- 注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。
- 注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。
- 注3) 使用回数は栽培期間内での回数であり、掘り上げない栽培の場合は、年をまたいだ収穫までの総使用回数なので、間違えないように注意する。

防除時期 及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び 10a 当り使用量	使 用 法	注 意 事 項
植付直後、中耕培土直後 (萌芽前) 全面土壤散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルラリン 44.5%) 250ml	1. 水 100lに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. 既に発生している雑草には除草効果が劣るので処理時期が遅れないように散布する。 2. トレファノサイドは広葉雑草に効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占するほ場で使用する。 3. ゴーゴーサン、コンボラルはツユクサ、キク科雑草に効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。
植付後又は培土後 (雑草発生前) (但し、植付 30 日後まで) 全面土壤散布	一年生雑草	トレファノサイド粒剤 2.5 (トリフルラリン 2.5%) 5 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	4. 除草効果を高めるため碎土整地はていねいに行う。 5. 激しい降雨が予想される場合は散布しない。 6. 土壌が極端に乾いている場合は効果が劣るの
		ゴーゴーサン乳剤 (ペンティメタリン 30%) 200～300ml	1. 水 100lに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	
		ゴーゴーサン細粒剤F (ペンティメタリン 2%) 5～6 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	

防除時期 及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び 10a 当り使用量	使用法	注意事項
植付後、培土後 (萌芽前) 全面土壤散布	一年生雑草 (ツユクサ、 キク科を除 く)	コンボラル (トリフルラリン 1.2%、 ペニグリメソル 1.2%) 4 ~ 6 kg	1. 手または散 粒機で均一に 散布する。	で、適湿時または適当に 湿らせてから散布する。 7. 重複散布すると薬害を 生じやすく、風によって まきむらを生じやすい ので風の無い日を選んで 均一に散布する。
植付後～萌芽直 前 畦間処理: 雜草生 育期 (但し、収穫 30 日前まで) 雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックス L (ジクラット 7%、 パラコート 5%) 600 ~ 800 ml	1. 水 100 ~ 150 l に溶かし、 噴霧機で雑 草の茎葉に 均一に散布 する。	1. 脱苞後のこんにやくは、 薬害が発生しやすいの で、出芽前処理はこんに やくの出芽直前に行う。 2. 生育期処理はこんにや くの茎葉に薬液がかかる と薬害が生じるので飛 散防止カバーを使用 するなど、注意して散布 する。 3. こんにやくの倒伏期以 降は球茎に薬害を生じ るおそれがあるので使 用しない。 4. 雜草が大きい時期は 10 a 当たり薬量を 800 ml と する。 5. 敷布後数時間、降雨のな い時に散布する。 6. 除草剤用の展着剤を加 用する。 7. 付近の作物にからな いように注意する。

こんにやく雑草防除体系

